雪解の小路たたずめば 春未だ浅き白楊のはるましまるとはくやう

木の間もれくる夕嵐 しばし聞けとて私語の

おぼろおぼろの水芭蕉 あはく足げに咲き出でし

なつかしの原始杜肩とりて

榾火をめぐり歌はなん 髪び

昔変らぬ風なれやむかしかわ 長髪頬に戯むれて

青史をかざす記念祭 今したたへん三十回のいま

契の杯に汲み交はし 尽きぬ男子の黒潮を 美酒の夜は更け行けど

常緑を祝ふ自治の宴

宍戸昌夫君 平城鷹雄君 作曲 作歌